

平成28年10月20日

於

府中市役所

平成28年度第2回

府中市総合教育会議 会議録

府中市政策総務部政策課

平成28年度第2回府中市総合教育会議 会議録

1 開 会 平成28年10月20日(木)

午後2時

閉 会 午後2時40分

2 出席者

市 長 高 野 律 雄 (議長)

教育長 浅 沼 昭 夫

委 員 崎 山 弘

委 員 齋 藤 裕 吉

委 員 那 須 雅 美

委 員 松 田 努

3 欠席委員

なし

4 出席説明員

文化スポーツ部長 五味田 公 子

教育部長 今 永 昇

文化スポーツ部次長(兼)生涯学習スポーツ課長 沼 尻 章

文化振興課長 山 本 忠

総務課総務係長 鈴 木 絃 美

5 政策総務部政策課事務局出席者

政策総務部長 町 田 昌 敬

政策課主幹(兼)オリンピック・パラリンピック推進担当主幹 佐 藤 直 人

秘書課長 柏 木 直 人

政策課主任 秋 山 なつみ

6 議事内容

(1) 協議題1 府中市教育委員会における平成29年度の施策展開の方向性について

(2) 協議題2 子どもたちの現状と取り巻く環境について

(3) その他

7 傍聴者の数

2名

8 発言内容

○**市長** それでは、只今より、平成28年度第2回府中市総合教育会議を開催させていただきます。教育長、教育委員の皆様には、お忙しい中ご出席いただき、心より感謝申し上げます。また、平素より、府中市の教育にご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。本日は、「府中市教育委員会における平成29年度施策展開の方向性について」などにつきまして、ご協議をお願いします。皆様の活発なご意見をいただき、さらに教育に関し、市長部局と教育委員会の連携を深め、本市の教育行政を一層推進していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

なお、本日は、那須委員、松田委員のお二人が新たに教育委員に就任されたということで、当会議に初めてご出席いただいております。後ほど議題に入る前に、自己紹介をお願いできればと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

◎傍聴許可

○**市長** また、この会議は、法律及び当会議の運営規程により公開が原則とされております。本日の会議は、協議題1「府中市教育委員会における平成29年度施策展開の方向性について」及び協議題2「子どもたちの現状と取り巻く環境について」の2件についてご協議いただく予定でございますが、傍聴を認めることとしてよろしいでしょうか。

○**教育長・教育委員** 異議なし

○**市長** それでは、傍聴を認めます。

◎新教育委員の紹介

○**市長** それでは、協議題に入ります前に、10月1日付けで新たに就任された教育委員のお二方に簡単に自己紹介をお願いいたします。

恐縮ではございますが、席次の順番で松田委員、次に那須委員の順をお願いいたします。

○**松田委員** 改めましてこんにちは。10月より教育委員を拝命しました、松田と申します。私は埼玉県出身でして、1993年に東芝に入社し、東芝府中ラグビー部として20年間現役生活を続けさせていただきました。2012年に引退しまして、そのまま東芝府中事業所で勤務しております。府中に住みまして23年になります。私は今46歳ですので、ちょうど半分を府中に住まわせていただいております。これからもお世話になりたいと思っております。

教育に関しましては、ずっとラグビーをやっており、体育会系の人間ですので、正直わからないことだらけですが、自分自身成長していきたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

○**那須委員** こんにちは。那須雅美でございます。私は第一中学校においてPTA会長を3

年間努めさせていただき、その間、府中市の美術館や給食センターの運営に関する協議会にも出席させていただきました。PTA会長を降任した後は、同じく第一中学校において、学校事務補助等でお世話になりました。また地域においては、10年間青少対において、地域の一人の大人として、子どもたちを見守ってまいりました。知識や経験などまだまだ足りないことばかりですが、このような普通の教育者でない私が、教育委員に任命された使命をよく考えて、府中の教育のお役に立てるようなことができればよいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

○市長 お二人ともありがとうございました。この府中市総合教育会議は、昨年の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正に伴い設置したものです。市長と教育委員会が、相互の連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進していくことを目的としておりますので、ご理解ご協力のほどいただき、ぜひ率直なご意見をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

◎議題1 府中市教育委員会における平成29年度施策展開の方向性について

○市長 それでは、会議次第に沿って議事を進めてまいります。本日の協議題は、次第の通り、1の「府中市教育委員会における平成29年度施策展開の方向性について」及び2の「子どもたちの現状と取り巻く環境について」です。

はじめに、協議題1「府中市教育委員会における平成29年度施策展開の方向性について」です。

前回の7月21日開催の第1回総合教育会議において、「平成29年度市政運営及び予算編成に関する基本方針について」を協議題とし、来年度の市政の方向性をご説明いたしました。平成29年度は、本市におけるまちづくりの指針である第6次府中市総合計画前期基本計画における計画期間の最終年度となることから、重点プロジェクトを含むすべての事業の進捗を点検・評価し、目標の達成に向けた総仕上げの年度とし、本市のこれまでの取組を一過性のものとする事なく、まちの成熟と将来の発展に向けて、今後の施策展開において必要不可欠となる事業を精査した上で、平成30年度からの後期基本計画の着実なスタートにつなげていくこととします。

この方針を元に各部からの来年度の事業提案を受け、検討する第2回政策会議を、10月12、13、17日に渡って開催し、教育部、文化スポーツ部からもご提案いただいたところですが、本日は、政策会議で示していただいた施策展開の方向性をご説明いただきたいと思います。教育長よりご説明をお願いいたします。

○教育長 前回7月21日の総合教育機会会議におきまして、高野市長から平成29年度の市政運営と予算編成の基本方針につきまして指針をいただきました。これを受けまして、本市教育委員会の平成29年度における施策展開の方向性を協議し、とりまとめましたので、本日はその内容について、教育委員会を代表して私より市長にお知らせしたいと思います。

本市教育委員会では、知・徳・体の調和が取れ、これからの社会をこころ豊かにたくまし

く生き抜き、ふるさと府中の将来を支える児童・生徒を育むべく、学校・家庭・地域の強固な連携の下、学校教育の充実に努めています。また、市民の文化・芸術活動やスポーツ活動の支援、生涯にわたる学習活動の推進、ふるさと府中の歴史・文化を生かしたまちづくりなど社会教育の振興に努めているところでございます。

平成29年度におきましては、こうした取組を更に充実させ、かつ時代の動向や要請に的確に応えるため、次のとおり施策を展開していくものとします。

はじめに、学校教育関係につきましてです。今後も引き続き、コミュニティ・スクール事業及び小・中連携、一貫教育を円滑に推進するための施策を展開するとともに、学校経営支援事業及び副校長等校務改善支援事業などを継続して実施することで、子どもたちの学力向上及び校長の安定した学校経営を支援してまいります。また、新教育課程の全面実施に向けた準備も進めてまいります。

特別支援教育につきましては、障害者差別解消法の施行に伴う人的、物的側面での支援に係る施策を進めていくほか、東京都の事業でございます特別支援教室構想に適切に対応してまいります。

学校施設については、喫緊の課題である老朽化に対し、平成26年度から平成28年度まで実施している校舎等老朽化対策調査の結果を基に、平成29年度からは中長期的な学校施設の老朽化対策計画の策定に着手いたします。また、平成29年度2学期から供用開始でございます新給食センターにつきまして、安全・安心でおいしいバランスのとれた給食の提供を行うため、準備を進めていきたいと思っております。

次に、社会教育関係につきましては、生涯にわたる学習活動の推進における「学び返し」を通じた地域教育力の向上や、府中市ならではの文化・芸術の振興、自主的かつ自発的にスポーツ活動に親しめる場や機会の創出などに引き続き取り組んでまいります。

スポーツの推進については、東京2020オリンピック・パラリンピック等の気運醸成及び障害者スポーツの普及を図るための取組を進めます。

また、「府中市史」の編さんについては、報告書・市史研究の刊行や講演会を開催します。

図書館及び美術館の事業につきましては、開館10周年を迎える中央図書館をはじめとした図書館の利用者のサービス拡充、美術館企画展のプロモーションを始めとする各種事業を引き続き展開していきます。

文化施設については、平成29年7月に府中駅南口再開発ビル地下3階に府中の森芸術劇場分館を開設し、新たな文化・芸術の拠点を提供することにより、更なる市民文化の振興を図るとともに、国史跡武蔵国府跡（国司館地区）及び熊野神社古墳の保存・活用は段階的に整備し、博物館プラネタリウムのリニューアルを実施してまいります。

以上本市教育委員会における次年度の施策展開の方向性についてお伝えさせていただきました。各施策の実現や円滑な進行のためには、市長のご協力及び相互の緊密な連携が不可欠でございますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

○市長 ありがとうございます。まず、学校教育関係においては、新教育課程の全面実施

に向けた準備に取り組むということ、また、中長期的な学校施設の老朽化対策計画の策定に着手するなど、新たな取組を進めるほか、長年取り組んできた新給食センター事業がいよいよ完了するということが、新しい局面を迎えるように思います。また、社会教育関係においても、東京オリンピック・パラリンピック等の気運醸成や障害者スポーツの普及はもとより、7月には、長年の夢であったとも言える府中駅南口の再開発事業が完成し、その中に府中の森芸術劇場分館が開設されるほか、新規事業やレベルアップ事業を数多くご提案いただいておりますので、総合計画前期基本計画の総仕上げに向け、変化しながらも、着実に事業を進めていただきたいと思います。

今後の予算編成の流れですが、現在、先ほど申しあげました政策会議を開催し、各課において予算の積算をしております。併せて今月末には、第2回政策会議の結果を各部に通知し、工事費等の2次経費の積算後、12月、1月に予算編成会議を開催し、予算額を確定していく予定です。総合教育会議では、この予算額が確定した次回開催の際に、ご報告させていただきますので、ご承知置きください。

以上で協議題1の「府中市教育委員会における平成29年度施策展開の方向性について」を終えさせていただきます。

◎協議題2 子どもたちの現状と取り巻く環境について

○市長 続きまして、協議題2「子どもたちの現状と取り巻く環境について」です。

今回の会議では、那須委員、松田委員におかれましては、初回の総合教育会議となりますので、個別具体的な協議題の設定はせず、「子どもたちの現状と取り巻く環境について」ということで、日頃感じておられることをご発言いただき、意見交換の場とさせていただきたいと思います。漠然とした協議題ではありますが、よろしく願いいたします。ご意見ありますでしょうか。

○崎山委員 コミュニティ・スクールの推進などの事業、子どもたちの学力、体力の向上、特別支援教育、安全でおいしい給食の提供など、教育委員会が関わる様々な施策において、すべて共通することと思いますが、どれだけ立派な施設や設備があったとしても、その事業や教育の担う人がしっかりと仕事をしなければ成果は表れません。府中市では、老朽化対策やいづれ建替などが必要になる施設もありますが、設備に関しては概ね充実していると考えて良いと思っております。今、重要なことは人を育てるという、ソフトの部分だと思えます。学校であれば、新採用の先生は当然のこと、新人であっても中堅であっても、校長、副校長であっても、常に研鑽を積んで、教員としての質の向上を図ることが大切です。子どもたちを育てる人を作る、これは教育現場に課せられた重要な仕事の一つです。

現在、学校現場では副校長等校務改善支援事業が進んでいるところですが、現場のニーズと時代の要求を敏感に受け止めて、教員を育てることを支援する事業に、府中市としてさらに取り組んでいただきたいと思います。

教育というものは結果が出るのが遅いので、性急に効果を求めることなく、長い目で施策

の実績を評価するべきです。府中市で教員生活を送ることの価値を高め、その教員が新たな教員を作り、教員同士が切磋琢磨する学校で、子どもたちの学力、体力が向上する様が見えてくることにより、教員の自己有用感も増すという、ポジティブなサイクルの動きに弾みをつけるような施策が盛り込めるように願う次第です。

また、教育委員会事務局においても、学校給食、教育センター、図書館、美術館、博物館、体育館など、それぞれの担当者が能力を十分に発揮して、仕事が進むとともに人材が育つような環境を作れる施策が、個々の部門の施策以上に大切ではないかと思えます。

教師も職員も、一人ひとりが子どもたちを育てるキーパーソンです。子どもたちを取り巻く環境を構成しているという自覚をもって、常日頃より仕事をしていただきたいと思うと同時に、努力する人を支援する取組を府中市としてぜひ実施していただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○**市長** 本当に大切なことであり、人を育てるのもこれもまた人でありまして、子どもたちに教育するのが教師であり、また、周囲の大人でありますけれども、教師を育てるのもまた、先輩であったり、地域であったり、そこに関わる多くの人々の力によって、経験を積み重ねつつ育っていくと言っていると思います。教育長が先ほどの協議題1の方で、コミュニティ・スクールのことについて少し触れておりましたが、地域の力をさらに充実させ、学校を応援できる、そういった体制を市長部局としても作れるよう、市民協働を言う言葉を使っておりますが、協働ということをより多くの市民の皆さんにご理解をいただき、公共心をしっかりと発揮できるような場を設けながら、人を育てると言う観点で事業を展開することも大切だろうと改めて思った次第です。

教育長何かございますか。

○**教育長** 私の方からは、先程崎山委員からも少し出された、副校長等校務改善支援事業についてお話させていただきます。この事業は、まず3年間実施し、その中で成果と課題を把握しながら進めるということで、昨年度より始めた事業です。この後、事業について分析、研究を行ってまいります。副校長先生がしっかりと学校経営に力を注ぎ、小学校で特に若手教員が増えておりますので、その先生方の授業をしっかりと見ていただいて、助言する、そのための時間がかなりとれるようになったものと認識しております。そのため、教員を育てるということにも寄与していると思えます。今後も、どのように進めていけば、さらに先生方が子どもたちの顔を見ながら指導する時間が確保できるのか、そのようなことについても配慮していきたいと思っております。

○**齋藤委員** 私の方からは、学校での教育内容がこれからいろいろ変わっていきそうだという話をさせていただきます。

先日、府中市内の小学校で授業を参観する機会がありましたが、子どもたちはいきいきとしていて、意欲的に学習に取り組んでいました。子どもたちは昔も今も変わらず元気なものだと思いますが、学校で学ぶ内容や学び方などについては、社会の変化とともに変わりつつあると思います。例えば、近々改訂が予定されている学習指導要領では、社会全体の国際化

が急速に進む中で、英語教育を小学校3年生から始めるとの内容が示される見込みでございます。簡単な英会話などに親しむ活動だけではなく、英語を読んだり書いたりする活動も入ってくると伝えられております。英語のネイティブスピーカー導入については、府中市でも進めているところですが、これからさらに充実が求められることになりそうですし、何をどうやって指導するのかという教員の研修も大きな課題になりそうです。

またそのこととも関連して、学校での授業時数がこれからさらに増えることになりそうです。今でも授業時数の確保のために、各学校では土曜日も授業を行ったり、夏休みなどの長期休業日を短くして授業を行うなどの工夫や努力をしていますが、今後はさらに学校行事の見直しも含めたカリキュラムの大幅な見直しも必要になるのではないかと考えております。学校は今とても忙しいと言えるかと思えます。教育委員会としては、府中の子どもたちの現在と将来の幸せのために何をすべきかを考えて、具体的な施策を進めていかなければならないだろうと考えているところでございます。市長におかれましても、ぜひご理解とご支援のほどよろしくお願いいたします。

○市長 ありがとうございます。学習指導要領が新しく改訂されて、いろいろ変化はあるのでしょうかけれども、小学校3年から英語を学べるようになるということは大きな変化です。将来に渡り国際的なコミュニケーションをとる一つのツールとして、英語というのは欠かせない、これからの時代は特にそうであるだろうと考えると、新しい取組というのは積極的に行っていかなければいけないのだろうと思えます。しかしながら、先ほどの話と一緒にありますけれども、指導要領が示され、その後いろいろ指導方法などが提示されるにしても、やはり教えていくのは教員ですので、十分な研修も必要ですし、また効果などを検証しながら積み重ねていくものだと思っております。加えて、今、本当に子どもたちが忙しいと言われている中で、授業時数を確保するためにいろいろな工夫がなされていますけれども、ある意味では少し余裕を持った生活を子どもたちに送らせなければならないと思えます。その一方で、しっかりと変えていかなければならない部分は変えていかなければならない。この両面を調和の取れたものにしていくには、学校だけでなく、我々市長部局も、また地域も、そういった学校や子どもの生活のあり方について、バックアップできるようなことを考えていかなければならないと思いました。

○教育長 新しい指導要領については、今少しずつその内容が伝わってきているところです。教育委員会では、校長会とも連携しながら、組織的に対応していこうと考えております。小学校3年生から6年生が週に1時間、それから英語教育、英語科ということですので小学校の先生は教員免許の関係が大きな課題であると思っております。

実は昨日小・中連携の日ということで、第七中学校と武蔵台小学校、第七小学校の連携の日の活動の授業参観をしてみましたが、その様子に大変手ごたえを感じました。すでに始まって数年経ちますが、中学校の先生と小学校の先生がお互いに授業を見せ合いながら、熱心に論議を重ねている姿を見て、私は感動を覚えました。英語につきましても、中学校には専科がありますから、府中市が進めている小・中連携という視点から、小学校と中学校の

持っている連携を深めていけば、これはピンチと言うよりはむしろチャンスにつながるのではないかと思います。教育委員会としては、条件整理、システムづくりに力をいれていけば、府中市の場合は成果が得られると考えています。また、教育委員会もそうですけれども、校長会、府教研等々とも連携しながらも、きちんと準備を進めて対応していきたいと考えております。

○**崎山委員** 英語のところに関して、昔から小学生の英語についてよく見っていますが、小学生の英語はコミュニケーションをとることであり、成績がつかない、そこがいいことだと思います。昨年のラグビーワールドカップで日本が南アフリカに勝った時のインタビューで、レフェリーとのコミュニケーションが大切だと言っていたことを聞き、勝つためにはそういうことも必要なんだと思った覚えがあります。コミュニケーションをとることが英語だと思いますし、それを実感できるのが小学生の英語だと思います。中学生になると入試があるので、そのための英語と言う部分がどうしても出てきますが、小学生にはぜひ楽しんでもらいたいと思います。

○**那須委員** 今の英語活動の話ですけれども、幼児期に英語教室に通っているお子さんが最近多いですが、その頃は積極的に参加しすごく楽しんでいたのに、小学校に上がり、少し間が空いて英語活動が始まるという時になると、羞恥心というか自我が芽生えてしまっていて、楽しく英語で歌うとか、英語で表現することが恥ずかしいと言う声を聞きます。小さい時はあれほど英語が楽しかったのに、もう楽しくなくなり、参加しなくなったということを経験の方から聞いたので、そのようなことにならないようにしていただきたいと思いました。

また、別の話をしてもよろしいでしょうか。一般的に子どもの環境ということで、普段の家庭生活を通して考えてみたのですが、保護者の方々の意識の変化、また子どもたちの塾や習い事などの放課後の過ごし方の変化、それに加えて、パソコンやスマートフォンなどの情報機器の発展によって、家族と共有する時間が減り、家族とコミュニケーションをとる機会が減って、子どもが一人で過ごす時間が多くなってきていると、皆さん感想としてお持ちかもしれません。保護者の働き方ばかりでなく、保護者の意識の変化により、いわゆるしつけと言われてきたようなこと、昔なら当然家庭で身につけたことも、そうではなくなりつつあると危惧しています。普段街中では親としてよりも個人としての楽しみを優先するがあまり、子どもに必要な手や目をかけることをしていない親を見かけることも残念ながらございます。そのような子どもたちが危ない目にあったりしないか心配でもありますし、その子どもたちも数年後には小学生となるわけで、そうなる急激な人口集中が予想される地域もあると伺っていますので、学校においてはどのような状態になってしまうのだろうかと思慮いたします。でもだからといって、保護者の働き方を変えたり、パソコンなどがなかった時代に戻ることはできないわけですから、今までがどうだったかは考えず、日々進歩、変化していく環境の中で、ではどうしたらより良く子どもを育て、教育し、生きていく力を身につけられるのかを考え、実践していきたいと考えております。かつては家庭で習得できて

いたことができなくなっている今、本来は家庭でできるのが一番いいと思いますけれども、できなくなったことを社会全体で補えるようにならないといけない段階にきていると最近思うようになってきました。そうだとするならば、社会という大きなくくりで考える場合には、学校がそれを補う役目を果たすところが今よりも大きくなるかもしれません。先ほど市長より、子どもたちに教育しなければならないこともたくさんあるが、そうかといってちょっと余裕を持てるようなバランスを見極めなければならないと言う話もありましたけれども、現実問題、現場の先生だけにしつけの部分も補完することは業務量的には厳しいと感じております。教育委員会はもちろん、事務局の方々とも思い描くものに対して共通意識を持ちながら、コミュニケーションを図り、頭を柔らかくして、子どもたちを育てていきたいと考えています。

○市長 社会の変化の中で、一番変化しているのはもしかしたら子どもたちを取り巻く環境なのではないかと感じています。私が子どもの頃と比較してはいけないのかもしれませんが、数日前の政策会議の中で、学童クラブと放課後子ども教室のあり方についていろいろ協議をした際にも、子どもたちが公園で群れて遊んでいないという話がでました。親御さんも子どもの安全に気を使うと放課後子ども教室などに通った方が安心だと思うのかもしれないですし、また習い事などで、学校が終わってからすぐに行かなければならないなど、本当に大きく変化をしていると思います。全体的になにか余裕がない、だからこそもう一度働き方を考えてみようということになるのかもしれませんが、そうはいうものの子どもたちを取り巻く環境は、より余裕を持って充実していくような、そういったことを心掛けていきたいなと思いました。ありがとうございました。

それでは協議題2を終了させていただきます。

○市長 本日の協議事項は全て終了しました。最後に事務局から連絡はありますか。

○佐藤政策課主幹 次回の開催についてご案内させていただきますが、年明けの2月または3月で開催させていただきたいと考えております。詳細につきましては、改めてご連絡させていただきたいと考えております。

○市長 本日の開催につきましてはご多忙のところお時間をいただき、ご協議くださりありがとうございました。これで本年第2回府中市総合教育会議を終了させていただきます。